

植物と人々の博物館メールマガジン

第 98 号 2023 年 4 月 6 日発行



サクラの開花する品種は移り行き、染井吉野から枝垂桜、八重桜へと進んできました。毎年、楽しみにしているフデリンドウも可憐に咲きました。武蔵野公園で何方が保全活動をされているのかお会いしたことはないですが、個体群はとてつ拡大しています。ムラサキサギゴケも咲き始めました。

素のままの美しい花々、物事、作品、言葉、その中に真情を見いだしては称賛し、日々の暮らしの中で共感し、結び、希望を求めて励まし合いたいです。ぜひ友の会会員になってくださり、ご一緒に植物をめぐる生物文化多様性、在来品種の保全のための調査研究や普及活動にご参加ください。

1. 植物と人々の博物館

友の会会員になって、ご一緒に博物館づくり活動をしてくださると嬉しいです。

○予定

- 1) 開館・作業予定日：4 月には 1 日ほど開館します。
- 2) 公共の場における再公開について、新たな可能性を探りながら、試案を検討しています。上野原市長にご提案しています。

○報告

- 1) 民族植物学ノオト第 16 号は 3 月末に発行しました。この号では、こすげ冒険学校、ちえのわ農学校および植物と人々の博物館に関する資料を小史として記録しています。自然文化誌研究会 50 年のまとめの一端を作成することができました。日本環境教育学会の創業団体として、環境教育の実践理論を基礎づけた一次資料です。

これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。 <http://www.ppmusee.org/goods.html>

2) 電子書籍：

編集子は自選集 IV『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』は序章から改訂し、順次、第 3 章インド亜大陸の食文化を公開します。今は、第 4 章南インドの雑穀文化複合をまとめています。同時に、これらのまとめとして自選集 V“Essentials of Ethnobotany”の一部公開を進めます。自選集 VI『随筆集—生き物の文明への黙示録』に順次新作を追加しています。東京学芸大学中央アジア学術調査（1993）報告書の雑穀の部分公開しました。考古学では中央アジアに関心が高まっているようです。

[westturkistan.pdf \(milletimplic.net\)](http://www.milletimplic.net/westturkistan.pdf)

<http://www.milletimplic.net/indiansubcont/westturkistan.pdf>

- 3) 公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>に含めて民族植物学関係 HP：生き物の文明への黙示録も国会図書館インターネット資料収集保存事業

(ndl.go.jp)で毎年1回収録されます。

<http://www.milletimplic.net/>

4) 森とむらの図書室への寄贈など

「お米の勉強会会報」「クリンネス」「現代農業」「うかたま」「地域」「環境と文明」、「つぶつぶ」、「食べ物通信」、「土と健康」、岩崎信子・大谷ゆみこ『年収1000万超えの田舎暮らし』ほかをいただきました。ありがとうございました。

国際雑穀年に当たり、原稿の依頼が多いです。月刊「クリンネス」へのエッセイ隔月連載は今年も続けます。去年は花の香でしたので、今年は花の色を話題にします。季刊「つぶつぶ」への連載、雑穀物語～篤農伝も書いています。

5) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、できるだけローテクで貯金箱に眠っている1円玉からする任意募金を以前から考えていました。植物と人々の博物館の維持のために会員になってくださるか、ご寄付あるいは整理作業のご協力を、よろしくお願いします。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。雑穀街道普及会も含めて、費目指定でご寄付をいただくとありがたいです。郵便振込口座は下記です。

口座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

すでにご寄付を頂き、感謝しています。説明用冊子の印刷（4刷で2000部）と雑穀栽培講習会の農具や肥料の経費に使用させていただいています。今後、計画が進行するようなら、クラウド・ファンディングや助成・補助も考えていと思います。

2. 自然文化誌研究会 今年度の主な予定 詳細はホームページをご覧ください。

4月23日(日)、野草のてんぷらとお茶つみの会、50名

東京学芸大学環境教育研究センター（農園）

5月3日(水)～5日(金)、むらまつりキャンプ、2泊3日、20名

小菅村のいつものキャンプ場

8月4日(金)～10日(木)、こすげ冒険学校、6泊7日、20名

小菅村のいつものキャンプ場

8月中未定、タイ環境学習キャンプ、15名、ウタイタニ国立公園、パンダキャンプ
他

9月30日(土)～10月1日(日)、INCHまつり（ライブ）、30名

小菅村のいつものキャンプ場

12月下旬（23-25 or 26-28）、まふゆのキャンプ、15名

小菅村のいつものキャンプ場

3. 雑穀街道普及会：

この活動は、中川さんや編集子のような、出アフリカ古層A型の子孫、縄文人の末裔を自認するものは自然と共存して生業を継承し、過剰便利に抵抗して雑穀栽培を伝承してきました。縄文土器を博物館に展示することも大事ですが、先人が生きたまま継承してきた雑穀の種子を切らさないことにも関心を向けていただきたいと思います。かさ

ねて、日本列島における縄文農耕の歴史、その伝統的知識体系の蓄積を絶やさないように、もう時が迫っているのです。消滅させないように切にご助力をお願いします。

簡単な栽培方法は次のサイトにも公開してあります。家庭菜園や雑穀に関するご質問にはメールくだされば、いつでもお答えします。

<http://www.milletimplic.net/weedlife/farmsklec8p.pdf>

雑穀街道普及会は下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

なお、50年間、定点参与観察、調査研究してきた『日本雑穀のむら』第3章関東地方・第4章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果（1974～2017）をまとめてあります。<http://www.milletimplic.net/milletworld/millet/sn/jnmpilvil.html>

雑穀街道普及会の会員や賛同者になっていただければうれしいです。趣意書や会則など、さらに「街道美味」は雑穀製品、佐野川茶やクラフト・ビールを紹介していますので、下記のホームページをご覧ください。会費や寄附は任意で、個人の意思を尊重し、あえて納入規定は設けていません。趣旨の賛同していただき、会員になっていただくようお願いしています。

遠くアフリカ、インドなどから極東にまで伝播してきて、縄文後晩期以降数千年、この島嶼に住む人々の命の糧であった数種の雑穀、日本における伝統的な雑穀栽培はいよいよ絶滅しそうな状況にあります。生きた文化財、雑穀や野菜の在来品種は種継をしなければ、死んでしまい、もう生き返らせません。生物文化の伝統的知識も継承されません。全国各地の伝統的雑穀栽培を継承する最後の篤農が90歳を超えようとしています。雑穀農耕文化複合は日本の山村が世界に誇る生きた文化財として、今を限りに絶滅させないように継承すべきです。雑穀街道をFAO世界農業遺産に登録申請する提案普及を続けます。

○報告

雑穀街道協議会準備会づくり：

国際雑穀年は最大の好機で、相当数の方々が動画や資料を見てくださっています。でも、なかなか、雑穀や生物文化多様性、農耕文化基本複合、伝統的知識体系などの大切さを、深く理解していただくことは難しいようです。世の中に対して、植物と人々の博物館および個人としてできることはおおかたなし終えました。世論がどう変わるのか、今しばらく待ちます。

① FAO世界農業遺産の申請団体となる雑穀街道協議会を創るために、準備活動を進めています。現況は下記のサイトにあります。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/milletstrasse/approval22811.pdf>

② 説明冊子第4版を発行しました。相模原市役所での市長面会、新たな賛同団体を加え、改訂しました。雑穀街道地域は縄文時代中期の勝坂土器文化圏に重なります。印刷物を配布くださる方には必要部集を郵送します。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/milletstrasse/ms23e4.pdf>

4. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

セミナーの動画や予習・復習資料 pdf などは下記のサイトにあります。

<http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

多くの世代が信頼の下に、ともに話し合い、深く考えて環境問題の解決を広く探りたいです。人々との間に信頼を築きたいです。セミナー座談会への参加希望やご質問などは下記にメールください。環境楽習会は小金井環境市民会議の都合で休止しました。自給農耕ゼミは引き続き開催しています。雑穀栽培会（西原）も連携します。

内容についての連絡先：kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男（企画室事務担当）

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全 NP04 団体と 3 個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの 12 世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。

今この時、人新世の変曲点で、人生における学ぶ意味について改めて考え直し、再びルネサンス生き物の文明を日本から起こしたいです。この市民大学は任意無償提供の学習素材、任意寄付で維持します。この提案にご賛同の方々の参加（リンクなど）を広く求めます。よろしくご連絡をお願いします。最近の録画、話題資料メモは下記 CUUES サイトにあります。

<http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

○ 予定

1) 自給農耕ゼミ（小金井）：

第 6 回自給農耕ゼミ（小金井） ※昨年 7 月の延期分を行います

日時：4 月 15 日（土）13：30～16：00 集合・解散場所：JR 東小金井駅北口

場所：小金井市関野町、梶野町の玉川上水周辺（定員：15 名）

プログラム：

話題：「明日につなぐ風景～東小金井・梶野町の民有地が彩る HANANA と緑」

案内：小谷俊哉さん（小金井市環境市民会議、NP0 法人グリーンネックレス）

要旨：市民参加や民有地所有者が携わってきた東小金井・梶野町周辺の緑を巡検します。1964 年に全国初の請願駅として開業した東小金井駅の周辺は、2000 年に始まった JR 中央線の高架化事業を皮切りにその姿を大きく変えてきました。一方、江戸時代に玉川上水から分水を引くことで開拓が進んだ東小金井駅北側一帯の梶野町は今でも屋敷林や農地が点在し、東小金井駅から北の小金井公園の間をみどりと水路でつないでくれています。この梶野町で、長年たくさんの花で彩られた農地とアパートを営み、多様な樹木から成る屋敷林の中で住まわれていた瀧島義之さんが昨年 1 月に亡くなられ

ました。花と緑を愛し、2004年の陳情に始まり屋敷林を残すことに精力を傾けた故人の足跡を辿りながら、新旧の東小金井駅北口周辺を巡り、「明日につながる風景」に向けて私達ができることは何か、参加者のみなさまと一緒に考えます。アニメさながらに、建物と周辺の佇まいが美しいスタジオ・ジブリもあります。

協催：カエルハウス運営委員会、NPO 法人グリーンネックレス、

NPO 自然文化誌研究会／植物と人々の博物館／雑穀街道普及会

申込み連絡先： 042-316-1511（カエルハウス運営委員会）または

office@katayamakaoru.net 資料代 300 円

参加申込みをしてくださった方には詳細な案内をお伝えします。

*このゼミの動画、話題資料などは、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、互いに体験と知識など学び合う環境学習市民連合大学の下記サイトで一般公開します。

<http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

*内容についてのご質問は kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男（企画室事務担当）

2) 自給農耕ゼミ（佐野川）：

国際雑穀年を契機として、在来雑穀の栽培法を学び、栽培者を増やして、絶滅寸前の栽培現況を改善しましょう。そのために、遺存的栽培地を結ぶ雑穀街道を FAO 世界農業遺産に登録申請し、山村において生物文化多様性を現地保全します。プランタでも栽培できるように栽培の手引きや雑穀種子を差し上げます。栽培から、加工・調理まで実習し、また、収穫物で美味しい料理やクラフト発泡酒を楽しみましょう。

上野原市西原でも NPO さいはらの雑穀栽培会があります。あわせてご案内します。ご参加ください。

第 12 回自給農耕ゼミ（佐野川）

○ **日時：**2023 年 5 月 21 日（日）予定 9：00～15：00 茶摘みの日程により変更有

○ **場所：**神奈川県相模原市緑区の旧佐野川村上岩

○ **プログラム：**

実習：雑穀栽培の基礎技能を学ぶ。畝立て、施肥（元肥）、播種の仕方を実習する。佐野川茶の管理作業を学ぶ。

座談会：雑穀について話し合う。

話題提供者：宮本透、木俣美樹男（雑穀街道普及会）

集合場所：上野原駅バス停 8：30 または現地近くの石楯尾神社前

○ **協催：** NPO 自然文化誌研究会／植物と人々の博物館、雑穀街道普及会、ワノサト・プロジェクト、NPO さいはら（雑穀栽培会）ほか。

○ **協力：** ジャズ・ブルワリー

○ **申込み連絡先：** kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男（雑穀普及会事務担当幹事）

参加費は不要ですが、活動への任意の寄付は歓迎します。

*これまでに行った、このゼミに関連した動画、話題資料などは、市民社会の自由、平

等、友愛を基本原則として、互いに体験と知識など学び合う環境学習市民連合大学の下記サイトで一般公開されています。

<http://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

○交通案内： JR 中央線／上野原駅からバスがある。

電車 <行き>上野原駅 甲府方面から 7:59 着。東京方面から 8:25 着

<帰り>上野原駅 甲府方面へ 15:59 発。東京方面へ 16:01 発

バス <行き>上野原駅 8:35 発、石楯尾神社前 8:55 着。

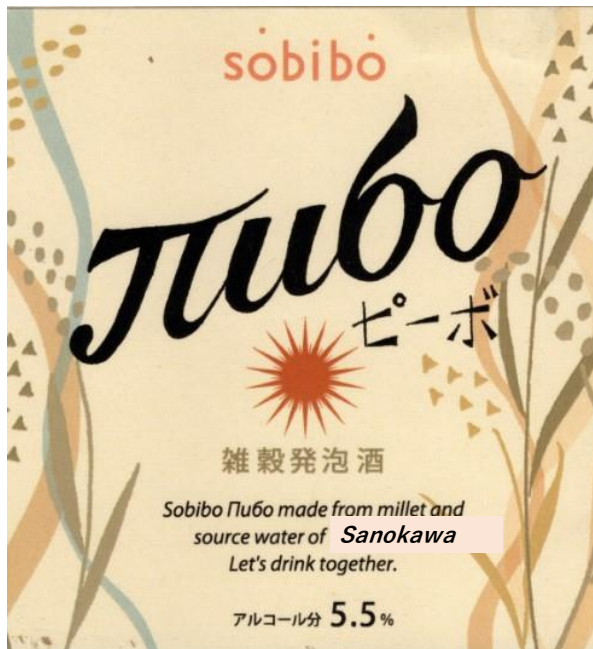
<帰り>石楯尾神社前 15:31 発、上野原駅 15:53 着。

更衣など施設 公民館

自給農耕ゼミと一緒に、佐野川の宮本さんの畑で収穫したキビとホップは山口さんの醸造所において国際雑穀年記念発泡酒としての下記の企画への仮申し込みを頂いています。

3) 雑穀発泡酒ソビボ・ピーボ 復刻企画

目的：国際雑穀年を記念し、雑穀街道を FAO 世界農業遺産に登録する活動を普及促進するために、雑穀発泡酒ソビボ・ピーボ（素美暮発泡酒）を復刻します。雑穀街道美味の新商品になることを期待します。前回のラベルを基にした仮ラベルです。



雑穀街道を世界農業遺産に登録しよう

麦芽使用率 x x % 以上
Z z 産麦芽 70 %
その他の材料：相模原市緑区産
日本の里100選佐野川の水 100 %
キビ 30 %、ホップ

内容量 330ml



国際雑穀年記念2023

雑穀街道普及会

材料・醸造関係

①宮本茶園において、自給農耕ゼミ（佐野川）で栽培したキビ 10kg、およびホップを使用します。製法は前回のマイクロブルワリー（馬場さん）と同じ予定です。中国山東省で「会盟を誓う固めの杯」に用いたキビの即墨老酒は、焙煎工程を加えて、紫色を帯びた濃褐色であり、独特の芳香と苦味、やや酸味のある甘さを持ち、黒ビールに似ているといいます。ソビボ・ピーボはイギリスのギネスビールのような味わいになります。

②藤野の Jazz Brewing Fujino（山口さん）で醸造します。

2018年、神奈川県相模原市にある陣馬山の麓にオープンした超小規模醸造所。日本の里山百選にも選ばれた旧藤野町佐野川の名水を使用し、非加熱、無濾過。使用している酵母は仕込み毎に使い切りの純粋培養された活性度の高い酵母でこだわりの醸造を行っています。

3) 山口さんの通常販売価格は6本、送料込み5,500円でネット販売されています（遠隔地は送料が異なります）。これに加えて標記目的のために、よろしければ、任意のご寄付を加えていただければうれしいです。

仮予約方法

企画へのご質問や仮予約申込先は雑穀街道普及会、事務幹事 木俣に下記メールでお願いします。 kibi20kijin@yahoo.co.jp

仮予約が限定50口になりましたら、改めてご連絡し、代金などをお振込みいただきます。**現在、仮予約24口**です。醸造を始め、1月ほどでできます。冷蔵で1年間保存できますが、でき立てのほうがおいしいので、まず事前に仮予約を頂きます。1ロット330ml瓶300本、製造価格約20万円、これらにラベルデザイン・印刷代、送料などの経費が加わります。

企画団体：植物と人々の博物館／日本村塾自給農耕ゼミ（佐野川）、雑穀街道普及会ほか

○報告

1) 東アジア、ローカル・シード・ネットワーク

3月18日に中国、台湾と日本の参加者で在来作物種子の保全活動がとても活発に行われていることが報告されました。3月22日には韓国と日本の参加者20名ほどで話し合われました。市民の間で、家族農業を支える在来作物の保全活動が経験交流することは、とてもうれしいことです。

2) 桂川・相模川流域協議会幹事会

4月5日に開催されて、雑穀街道協議会準備会の賛同団体（名義使用）になる件につき協議があり、次の結論になりました「市民部会は賛同団体になることに異存はない。行政部会は5月の幹事会までに、賛否を明確にする」。

代表幹事の倉橋さん他市民部会の主だった方々は全面的に賛成意見を述べてくださいました。しかしながら、行政の幹事は回答を回避したので、倉橋さんらが次回の幹事会までには回答するようにといつてくださいました。

3) 国際雑穀年記念・つぶつぶ雑穀パワーフェス

オンライン・イベント・全3回（ZOOMウェビナー使用・定員500名）は終了しました。ご参加ありがとうございました。

（目的）雑穀・つぶつぶの魅力（おいしさ×栄養価＝パワー）と重要性（保存性：飢饉対応・危機対応・生命文化遺産）を広く伝え、多くの方に興味を抱いていただき、この動きに賛同・協力・参加していただき、雑穀料理＝未来食つぶつぶ、や木俣美樹男氏の提唱する「雑穀街道」をFAO世界農業遺産への登録申請を後押しする。

第一回 2023年1月21日（土）、雑穀は未来食で美味しい！」

150名ほどの申し込みがあり、70名ほどが ZOOM 参加しました。とても賑やかな演出で楽しかったと思います。

第二回 2023年2月18日（土）、「つぶつぶは歴史的・風土的たからもの」

400名以上の申し込みがあったようですが、60名弱の ZOOM 参加でした。

第三回 2023年3月18日（土）、「つぶつぶクッキングと自給農耕で自立する！」

1反（300坪）の雑穀畑と未来食で食と経済の自立ネットワークを育てよう。

音楽ライブ生中継（from 南阿蘇）：Upepo Upopo（約10分）**雑穀のうた新曲草の結び発表**。今年は雑穀を栽培するそうです。

申し込みは469名、ZOOMなどの参加者は50名弱だったようです。

主催：ワノサト・エコビレッジ・プロジェクト。共催：一般社団法人ジャパズビーガンつぶつぶ。協力：NPO法人トランジション・ジャパン、雑穀街道普及会、(株)フウ未来生活研究所、トランジションタウン小金井、NPO法人自然文化誌研究会／植物と人々の博物館、農と食女性協会。

「ここが天国」（英語版 5' 25"）https://youtu.be/nEgDo__3JHo

◎うべぼうぼぼ HP <https://upeupo.pirka-aso.com/>（**草の結び**・この URL で聞けます）くまもと阿蘇は俵山の麓で農的生活を営みながら、オリジナルの唄を歌い続けています。メンバーはぴりかと二階堂和章、うべぼはスワヒリ語で「風」うぼぼはアイヌ語で「唄」という意味です。風のように自由に、歌うように人生を楽しみ、自然に還っていきたくと思っています。トランジションタウン南阿蘇メンバー。ライブスケジュールはこちら→<https://upeupo.pirka-aso.com/%e3%83%a9%e3%82%a4%e3%83%96%e3%82%b9%e3%82%b1%e3%82%b8%e3%83%a5%e3%83%bc%e3%83%ab/>

~~~~~

**植物と人々の博物館**（山梨県小菅村）：館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男（東京、専任、担当運営委員）、西村俊（石川、担当理事）、井村礼恵（東京、担当運営委員）、川上香（長野）、渡辺隆一（長野）、Sofia M. Penabaz-Wiley（千葉）、伊能まゆ（ベトナム）ほか

公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

**雑穀街道普及会** <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

事務担当幹事 メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

栽培担当幹事：宮本透

民族植物学関係 HP：生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

**エコミュージアム日本村／ミュージアム研究会／トランジション小菅**（山梨県小菅村）：

代表 亀井雄次（山梨小菅村）

**自然文化誌研究会**：代表 中込卓男（東京）、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

<http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村） [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)



環境学習市民連合大学 <http://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

企画室事務担当：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

~~~~~

{ひとりごと／編集子私言}

降矢静夫さん、古守豊甫医師の遺志を継いで 50 年、いまだに地域行政の対応は変わらず、情けないことに行政職員には地域への愛着、誇りや先人への敬意がないのだと、幻滅（R. ドーア）とバカの壁（養老孟司）を強く感じています。

写真



ムラサキサギゴケ、フデリンドウ、

京都のお屋敷としてテレビドラマに出てくる大森邸の散り行くサクラ